

一般質問12の視点

「歩いて・見て・聴いた」こと「議員自身の提言」も交えて、町に考えを質す！

9月定例会でも、あらゆる町の課題に、議員一人一人の目線で、執行部と真剣な議論を展開。今後の町の動向にも注目！

P13	P13	P12	P12	P11	P11	P10	P10	P9	P9	P8	P8
気 候 危 機	教 育 将 来 像	新 教 育 長	地 域 の 安 全	防 災 士 研 修	子 育 て 環 境	地 球 環 境	こ ど も 計 画	支 障 木 除 去	イ オ ン 開 店	町 の 理 想 像	カ ス ハ ラ

皆さんは
どのテーマに
関心が
ありますか？



各議員のQRコードから一般質問の録画映像を見ることができます。
スマートフォン等からアクセスして、ぜひご覧ください。
全質問項目は、下諏訪町ホームページから見るすることができます。

下諏訪町議会
議会中継 
チャンネル



質問順

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| ① 大橋 和子
ハラスメントなどの対策は | ④ 松井 節夫
道路に接する支障木除去を |
| ② 林 元夫
GDを施策に反映した点 | ⑤ 高橋 幸二
計画の根底にある理念は |
| ③ 野沢 弘子
買物支援、移動販売の今後 | ⑥ 花岡 進
プラスチック増加防止対策 |
| ⑦ 金井 敬子
学童クラブにちこ隊？ | ⑩ 青木 利子
新たに就任しての方針を |
| ⑧ 樽川 信仁
定期的な研修は出来ないか | ⑪ 林 吉広
教育長が描く教育ビジョン |
| ⑨ 豊島 健之
災害時の避難所開設要請は | ⑫ 竹元 完奈
公共施設の断熱状況は |

田
中
町
の
こ
の
こ
ろ



おおはし かずこ
大橋 和子

ハラスメント などの対策は 多くの研修を 開催し対応

問 役場業務に支障をきたす要求は。

総務課長 窓口や電話で威圧的な態度が繰り返される事例等がある。

赤彦生誕150周年

問 記念祭はどのような計画か。

産業振興課長 記念年に1年かけて企画していく。具体的には未定。

学校の防犯対策

問 生徒を不審者から守る対策は。

教育こども課長 警察、教育委員会、保護者へ状況を早急に連絡。

問 学校のセキュリティ対策は。

教育こども課長 PHS導入などで、通信環境を整備。

旧矢崎商店の今後

問 国登録有形文化財の指定を待ちながら、価値を活かすには。

産業振興課長 内も外も極力変え

ず、耐震性を確保して活用したい。

問 一棟貸し計画は、セキュリティの面でいかがか。

産業振興課長 セキュリティの配慮が必要で、文化庁など関係機関と確認を取りながら進める。

春宮付近の動線

問 春宮駐車場を起点とした分かり易い観光案内整備を。

産業振興課長 周辺マップの改定や、内容について検討していく。



旧矢崎商店内部の貴重な建具



はやし もと お
林 元夫

G Dを施策に 反映した点 4地区のG Dを 検討しプラン作成

問 「理想のしもすわを求めて」は、私の議員になった時からの根源的テーマ。下ノ諏訪宿地区のG D（グランドデザイン）で、施策に反映した点、反映していく点は。

町長 官民の役割を把握した上で行政のやるべきことを検討する。

問 4地区のデザインを検討した上でアクションプランを作る。

町長 赤砂崎左岸の活用は。

町長 開発用地はエコタウン構想、バイパスの代替用地としての活用を想定してきたが、見直しが必要。新たな視点で多角的に活用方法を模索したい。

問 社地区におけるニデックの社宅跡地の活用において、一部南側はバイパス工事に伴う代替地として、造成した上で分譲。北側の土地は確かな構想がない限り、町の財政負担となる。どう開発するか。



山王閣跡地の斜面の劣化が進む

ながら検討していく。

問 社会福祉協議会の移転用地にどうか。

町長 町とは別組織なので、社協がどう考えるか聞いてからの話だ。

問 山王閣跡地では斜面に使用されている土のう袋の劣化が進行中。また荻原製作所跡地における行政主導・指導による早期の活性化は。

町長 所有者の意向を聞く中で、町としてできることがあれば、協力・支援する。



のざわ ひろこ
野沢 弘子

買物支援、移 動販売の今後 買物支援の在り方 を再検討する

問 イオン「多世代交流施設」への交通インフラの利便性の向上は。

町長 あざみ号の路線やダイヤの改正で、スムーズな移行に努める。

問 ミニ図書館等で読書の機会を。

町長 現代の課題であり研究検討。

小中体育館の空調整備

問 有利な緊急防災・減災事業債の活用で、猛暑から児童生徒を、また災害時には避難者の命を守るためのエアコン設置を。

教育こども課長 R4年、各校に2台ずつポットクーラーを配備し、大型扇風機と併用。学校からの要望に沿った事業の優先順位がある。

学校トイレの洋式化

問 下諏訪中学校の新入生用女子トイレが、和式4基・洋式1基で、和式が使えず休み時間にトイレを使用出来ない生徒もいた。洋式化



閉店より8年、来年の秋イオン開店！



まつ い せつ お
松井 節夫

道路に接する 支障木除去を 街路樹など点検し、 剪定している

問 住宅・道路に隣接の民有地の危険な木を把握しているか。

建設水道課長 把握していないが台風・豪雨の後パトロールを実施。国道142号線沿いの危険な木は県に写真を添えて要望している。

産業振興課長 危険木のリストはない。範囲も広く難しい。

問 危険な木がある場合、所有者に知らせて伐採した件数は。

建設水道課長 R6年国・県9件、JR1件、民有地3件。

産業振興課長 記録はないが、年間5件ほど。今後は記録する。

問 最近の支障木伐採状況は。

建設水道課長 道路にはみ出た枝の剪定3件。伐採はない。

産業振興課長 民有地は個人の責任で対応をお願いしている。

問 支障木伐採はお金がかかる。町で補助する考えはないか。

産業振興課長 相談件数や先進事例を参考にしたい。



142号線沿いの危険な木

例に学び検討する。町では森林税を活用した対策も検討する。

やしまるシェの運行

問 東山田や高木地区など、商店が遠い地区への、移動販売車やしまるシェの展開はできないか。

住民環境課長 基本的に地区からの要望によりルートや場所を決めている。7月に運行変更。民間業者と被らないようにしている。



たかはし こうじ
高橋 幸二

計画の根底にある理念は
心の通った支援を
全ての家庭に



はなおか すむ
花岡 進

プラスチック増加防止対策
諏訪湖クリーン
祭などでPR

問 「下諏訪町子ども計画」の根底にある理念と、町として子どもや家庭をどのように見据めているか。
町長 子ども真ん中の視点に基づいている。誰もが安心して自分らしく成長していける社会を、地域全体で作っていく。

保健福祉課長 地域活動は住民主体となり、関係性を築き支え合うことで成り立っている。資金面の支援や活動場所の確保など、行政が活動基盤の支援を継続していく。

問 農業用マルチシートの劣化によるプラごみ飛散の防止対策は。
産業振興課長 土に返るシートが出ており町も周知に努める。
問 プラスチックごみのポイ捨てをなくすための啓発は。

問 ゼロ次予防によってどのような健康まちづくりをめざすのか。
町長 スポーツをしない方々へアプローチし、誰もが健康でいられるまちづくりをめざす。

問 支援につながりにくい家庭へのアプローチの課題と工夫は。
教育こども課長 信頼関係の構築のため、誰が、いつ、どのように関わるか、関係機関と入念な打ち合わせを行い、柔軟な対応と配慮をしている。

問 現在の状況、今後の予定は。
産業振興課長 これまで移住定住総合拠点としての活用を決定してきた。加えて宿泊事業も準備中。R8工事着工。R9運営開始予定。

住民環境課長 国道142号沿いでパトロールや清掃を実施。諏訪湖の看板設置は県に要望していく。
問 マイボットの推奨やペットボトルを減らす取り組みは。

問 期限切れの保険証を持参する方が多いが、資格確認書の周知は。
住民環境課長 問い合わせ電話が多数。広報、ホームページの他、チラシを個別に郵送し周知している。

問 職員の心のケアや働きやすい職場づくりへの取り組みは。
教育こども課長 解決が難しい問題に日々向き合っている。一人で抱えないように職員間で共有している。

高年齢者など孤立防止は
問 孤立防止支援の方向性は。



町ホームページでもご覧いただけます

問 千葉大学予防医学研究センターの「ゼロ次予防」環境づくりとランドデザインの関係性は。
町長 健康をキーワードにしたまちづくり。ランドデザインと両輪の取り組みとなる。



ジョギングロードのごみ



かない けいこ
金井 敬子

**学童クラブに
ちおこ隊？**
代表支援員確保の
ための判断



たらかわ のぶひと
樽川 信仁

**定期的な研修
は出来ないか**
補助金対象を広げ
て再受講可能に

問 6月、「学童クラブコーディネーターの地域おこし協力隊」募集開始のお知らせには驚いた。現場との協議や合意形成は充分か。

町長 計画策定までの時間的制約もあり実施は困難。これまで様々頂戴している意見やパブコメにより更に反映していきたい。

問 防災士にも定期的な研修が必要と考えるが。

町民祭りを振り返って

教育こども課長 学童クラブの大きな課題が代表支援員の確保。現場と何度も協議を続け、努力をしても解決せず、地域おこし協力隊募集に至った。これに関して現場から反対意見はない。

問 町として「子どもの権利条例」をつくるべき。

町長 補助金対象を広げて防災士の再受講にも対応している。

問 来賓の接待を考えては。産業振興課長 個々に招待状は出している。接待や案内の方法は今後の検討としたい。

問 代表支援員の処遇改善や業務の見直しの協議が先ではないか。

教育こども課長 処遇については検討中。議論を深めないと、支援員自体の確保も難しくなる。デジタル化や仕事量の検討などの努力もしている。

問 今後における友好都市の在り方は。

問 課題や要望への対応は。教育こども課長 児童の入退室のデジタル化、食事の提供の検討、支援員の確保が考えられる。

問 「第8次総合計画」策定に向け、若い世代を主に更に意見収集する場を設けるべき。

問 今後表彰状のサイズ縮小は考えられるか。
町長 一定の理解はするが、表彰の意義、視認性や品格において一定サイズは必要と考える。

功労者表彰
問 今後表彰状のサイズ縮小は考えられるか。
町長 一定の理解はするが、表彰の意義、視認性や品格において一定サイズは必要と考える。



町ホームページ掲載のちおこ隊募集



避難所開設の点検確認



とよしま たけゆき
豊島 健之

**災害時の避難
所開設要請は
総務課危機管理室
が24時間対応**

問 災害被災者を受け入れる避難所の安全性について町の見解は。

総務課長 町指定避難所の選定に当たっては、法令を遵守して行っている。しかし実際の災害は、予想を超える場合もあり、実情に即した検証と見直しが必要。安全性の確認は、必要に応じて区と情報共有を行いながら努めていきたい。

問 指定避難所が町管理下の場合の初動対応は。

総務課長 危険についての地域（区理事者）の判断を町も非常に重要と受けとめている。先ずは迅速に町の危機管理室まで連絡いただきたい。夜間であっても宿直職員から危機管理担当への連絡が引き継がれる体制を整えているので、いつでも通報いただける。

町内人口増加に向けて

問 銀座NAGANO等、在京の



銀座NAGANOでの新しい出会い



あおき としこ
青木 利子

**新たに就任し
ての方針を
一人一人への
適切な対応**

問 町は少子化傾向にあるが、どのように教育していく考えか。

教育長 より子どもの様子を把握しやすくなる面もある。ICT（情報通信機器）を活用し、個別かつ協働的な学びを一体的に充実させる。また、主体的、対話的に、計画的な学びを充実させ、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善につなげられると考える。

増加傾向の海外旅行者

問 インバウンドによるオーバーツーリズム対策は。

産業振興課長 地域に負担をかけてまで集客する観光形態は支持されていない。国内旅行者も含め、受け入れる環境を整えるために、案内板や駐車場の誘導対策など随時に対応している。



頑張る子どもたち

独居高齢者の状況は

問 増加傾向にある一人暮らし高齢者への相談や支援策は。

保健福祉課長 民生委員の訪問や在宅介護支援センターのシルバーネット訪問事業により、困りごとの聴取や現状把握を行い、必要に応じて支援に繋げている。町地域包括支援センターではあらゆる相談に応じている。



はやし よしひろ
林 吉広

**教育長が描く
教育ビジョン
子ども達が通うの
が楽しい学校へ**

問 教育長が考える教育将来像は。

教育長 下諏訪町教員時代に地域と子ども達との触れ合いを見てきた。今後もコミュニティスクールが発展するように推進していく。

少子化での将来構想は

問 小中学校の統廃合の考えは。

教育長 国で検討されている学習指導要綱の改定を踏まえて、「学校のあり方検討会」を設け4校の強み・弱みを検討していく。

問 地域活動参加促進について。

教育長 地域社会の中で生活・社会・自然体験することが大切。自ら考え地域活動に主権者として参加できるような段階的に指導する。

問 部活動の地域移行の考えは。

教育長 部活動は生徒がやりたいことができる活動であるべき。保護者負担も考え、子ども達の選択肢をなくさないよう進めたい。

主権者教育の取り組み

問 体験型主権者教育の考えは。

教育長 地域の方との交流を通じて、学習やボランティア活動など主権者であるという自覚を育てる。子ども達の意識向上に努める。

問 町民が社会参画への意識を高める仕組みづくりは。

町長 学校での主権者教育と共に町政への町民参画に取り組み。意見を反映できる町政にしたい。



主権者教育用リーフレット



たけもと かな
竹元 完奈

**公共施設の
断熱状況は
改修計画にゼロ
カーボン視点を**

問 原村や県立高校でも行われている小中学校での断熱改修ワークショップの検討は。

住民環境課長 長野県環境部がサポートして各地で行われている。断熱改修は地球温暖化対策で重要。協力事業者も必要であり、メリット・デメリットを見て検討していく。

問 近隣の松本市や箕輪町でも行われている若者と住民と協働で行う気候町民会議導入の考えは。

住民環境課長 現状下諏訪町では、ゼロカーボンシティ宣言時から小学5年生にゼロカーボン授業を行っている。湖沼連の諏訪湖クリーン祭でのブース体験なども参加型の体験となっている。下諏訪らしい事業ができていくと考える。

産後ケアの拡充を

問 産後ケア事業の利用状況は。

保健福祉課長 妊婦は減っている



安心して産み育てられる環境を

問 が、利用者は増加傾向。

保健福祉課長 母子手帳交付時、訪問時、相談時にその都度案内。今年度アンケートを実施し、今後の事業の運営に活用していく。

問 補助率引き上げは。

町長 R7年度においては事業充実を図っており、他市町村に劣らない。今後産後ケアに関するアンケート結果を見ながら検討していく。